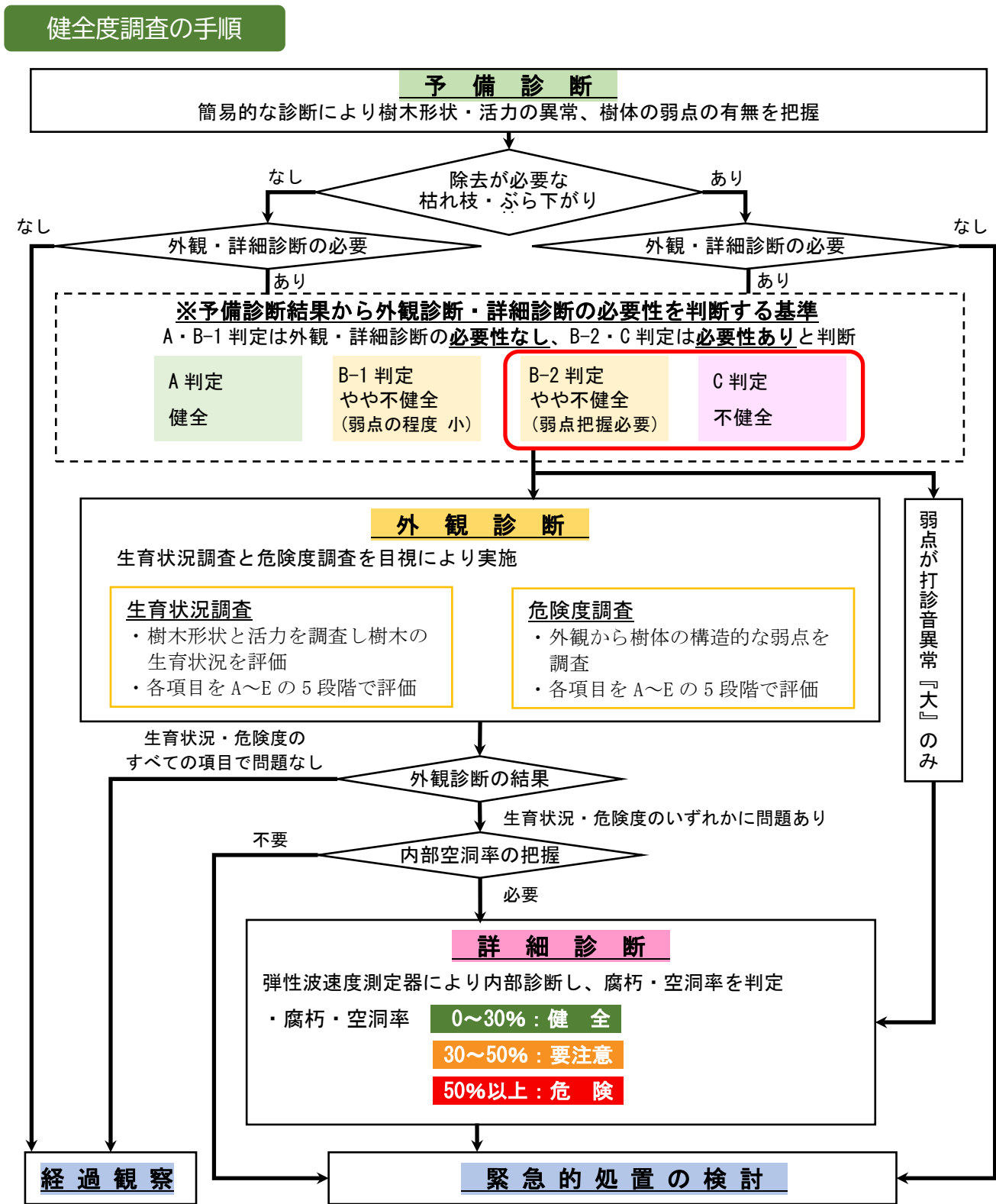


3. 健全度調査

- ◆管理計画の検討にあたり、現状のメタセコイアの倒伏・落枝の危険性を把握するため、令和4～5年度に健全度調査を実施しました。
- ◆健全度調査では、まず、簡易的な診断により樹木形状・活力の異常・樹木の弱点の有無を把握する「予備診断」を、補助競技場周辺36本、国道57号沿い171本、計207本を対象に実施しました。
- ◆予備診断の結果、さらなる診断が必要と判定された樹木を対象に、生育状況調査と危険度調査を目視で実施する「外観診断」を行い、さらに危険度の高い樹木については、弾性波速度測定器による内部診断で腐朽・空洞率を判定する「詳細診断」を行いました。



メタセコイアについて

【概要】

- ◆ヒノキ科メタセコイア属の落葉針葉樹(別名:アケボノスギ)。
- ◆当初、化石が発見されているのみで絶滅種とされていましたが、1945年(昭和20年)に中国四川省で生きたメタセコイアが発見され、「生きた化石」として有名になりました。
- ◆日本には1949年(昭和24年)に、種子から育苗していたアメリカの博士から天皇に献呈され、翌1950年、100本の苗木がアメリカから送られ、公園樹などとして植えられました。

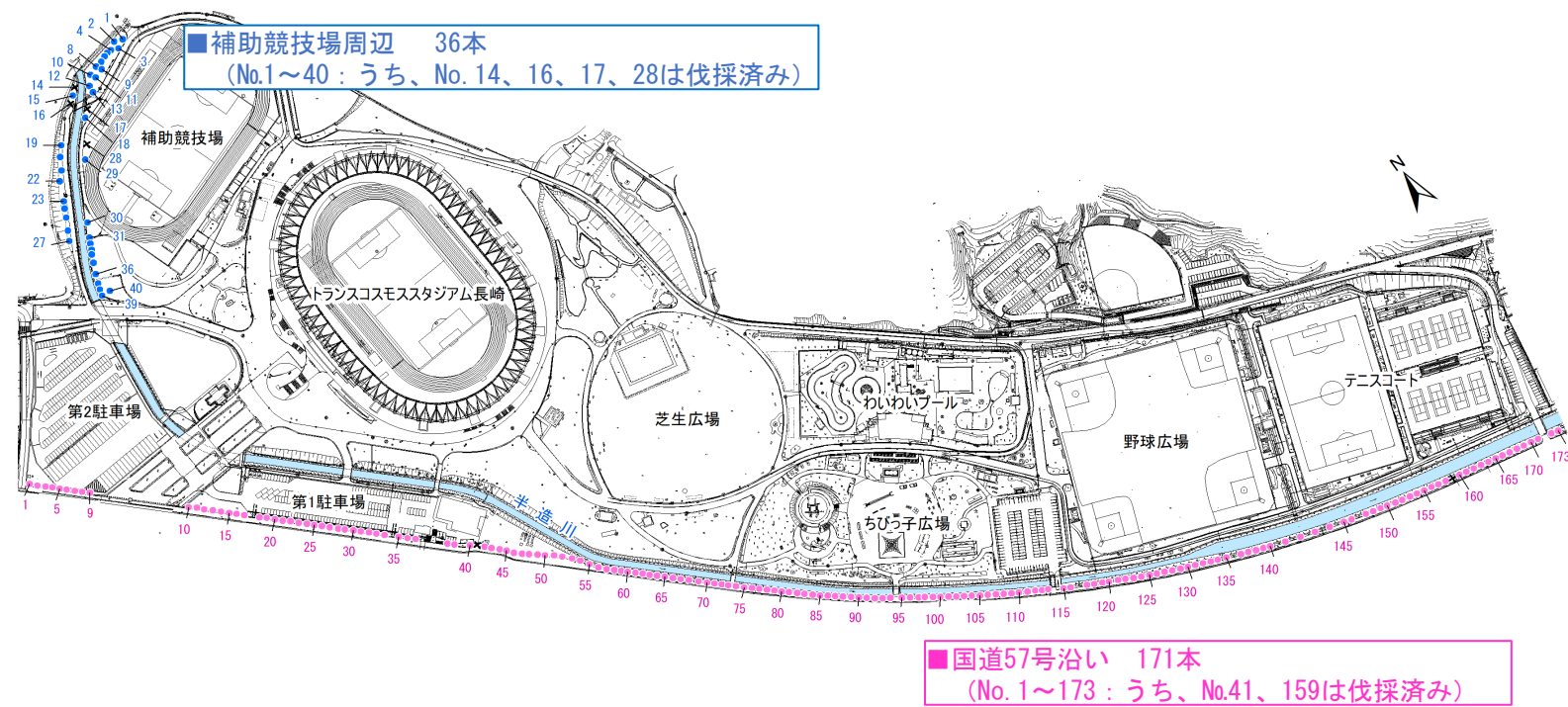


補助競技場周辺のメタセコイア並木

【生態】

- ◆成長が早く、幹はまっすぐに伸び、見事な円錐形に育ちます。
- ◆花が2～3月に咲き、10月ごろに実がなります。
- ◆秋には紅葉し、落葉は12月頃、落実は4月上旬がピークとなります。
- ◆樹高が15～40mの高さまで成長します。
- ◆湿地に適した樹で、日当たりが良く、水はけの良い湿地(水がとどまらない湿地)では、成長が早くなります。
- ◆暑さや寒さに強く、環境への適応性が高いです。
- ◆根は、地中深くまで伸び、水平方向への広がりには少ないといわれています。

メタセコイアマップ



◆問い合わせ先

長崎県 県央振興局 道路第二課

〒854-0071 長崎県諫早市永昌東町25-8 TEL：0957-22-0010 FAX：0957-22-6856

県立総合運動公園メタセコイア管理計画

令和6年9月
長崎県 県央振興局

基本理念(目指す将来像のイメージ)

『地域に愛されるシンボルとして、
将来につなぐ“美しい”メタセコイア並木づくり』を目指して



1.計画策定の背景と目的

■背景

昭和44年の長崎国体にあわせて植栽され、50年以上が経過した県立総合運動公園のメタセコイア並木は、地域住民などに親しまれ、地域景観のシンボリックな存在となっています。

しかしながら、樹高が30mを超えるなど高木化が進行し、管理が困難な状況になっていることや、老朽化の進行により、台風時に倒れ、民地や通行者・通行車両へ被害が生じるおそれがあります。

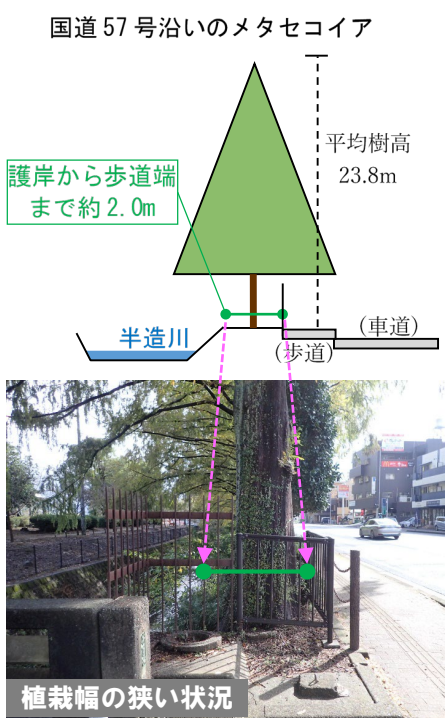
■目的

上記の背景を踏まえ、安全性を確保し、生育状況を良好に維持しつつ並木景観を保全するため、県立総合運動公園のメタセコイアについて管理計画を策定しました。



2.メタセコイアの現状

- ◆国道57号沿いのメタセコイアの平均樹高は23.8mです。植栽環境によって樹高は異なり、駐車場付近は低く、半造川沿いでは高い状況です。
- ◆樹高に対し、植栽幅は2m程度と狭く、半造川の護岸と国道に挟まれ、根の伸長が阻害されている可能性が懸念されます。
- ◆植栽の間隔は、概ね5～6mと近接植栽になっています。
- ◆国道57号沿いのメタセコイアの中心から国道反対側の道路境界までの距離は概ね22～24mです。
- ◆令和4年度の健全度調査では、全207本のうち17本が生育不健全と診断されました。



4.メタセコイアを取り巻く課題と基本方針

健全度調査の結果を受けて、総合運動公園のメタセコイアの課題を「安全面、景観面、管理面」で整理し、並木が将来にわたって存続できるように、それぞれに基本方針を検討しました。

安全面の課題

- ➡近接植栽のため、伸びた枝葉が絡み合うことで枯れ枝が生じ、落枝による人や車両への落下のおそれがあります。
- ➡植栽幅が狭く、近接植栽のため、根の生育が阻害され、将来的に倒伏するおそれが懸念されます。
- ➡国道57号は、交通量が多く緊急輸送道路にも指定されているため、倒伏・落枝等が生じた際には緊急時の交通阻害が懸念されます。



近接植栽の状況



枯れ枝の状況



国道57号への枝の張り出し

基本方針1

周辺の民地及び公園・国道利用者等の安全性の確保

- ◆公園利用者や、緊急輸送道路である国道57号を通行する車両や歩行者等に対して、メタセコイア並木に起因する事故や交通阻害を避け、地域住民や利用者等の安心・安全の確保を図ります。

景観面の課題

- ➡国道57号沿いのメタセコイア並木は、国道との緩衝緑地としての役割をはじめ、四季が感じられ、連続性のあるシンボリックな並木を形成しており、これらの景観確保が必要といえます。
- ➡植栽間隔が密なため、樹高及び国道幅員とのバランスからやや遮蔽感のある景観になっています。

基本方針2

連続性のある並木景観(シンボリック景観)の確保

- ◆健全な生育環境のもと、主に「並木としての連続性」、「円錐形の樹形美」、「公園外部との遮蔽効果」、「落葉や紅葉などの四季感」など、メタセコイア並木の美しさが最大限発揮され、道路景観と調和した地域に愛されるシンボリックな景観の確保を図ります。

管理面の課題

- ➡樹木の成長や近接植栽による日照障害から枯れ枝や落葉の量及び影響範囲が大きくなっており、さらに高木化が進行すると重機の使用条件など、維持管理が困難になってきます。
- ➡施設使用料の収入減少、資材費・労務費等の高騰により、維持管理費の増大が懸念されます。

基本方針3

持続可能な維持管理の実現

- ◆メタセコイア並木の健全な成長の確保を第一に、安全性の確保や景観にも配慮した上で、維持管理の軽減を図り、持続可能な維持管理の実現によりメタセコイア並木を将来にわたって維持していきます。

基本理念(目指す将来像のイメージ)

『地域に愛されるシンボルとして、将来につなぐ“美しい”メタセコイア並木づくり』

5.管理計画

管理計画の策定にあたっては、短期・中期・長期で具体的な管理方針を設定し、管理方針は、概ね5年ごとに実施する健全度調査の結果を踏まえて更新し、継続的に管理内容を検討していくものとします。

①短期的な管理方針(緊急的処置)

- ◆概ね5年ごとに実施する健全度調査の結果に基づき、主に安全面の影響を解消するため、可及的速やかに行う必要のある緊急度の高い処置を行います。
- ◆「人や車両の通行阻害」、「落枝・倒伏等の安全面」に影響を及ぼす緊急度の高い樹木に対して緊急的処置を実施します。
- ➡具体的処置：「枝の剪定・除去」、「歩道の根上がり対策(根系誘導耐圧基盤材の敷設)」、「樹木の芯止め」等



歩道の根上がり対策の例



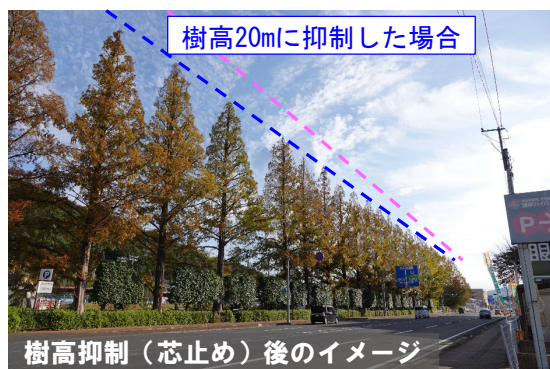
樹木の芯止めの例

②中期的な管理方針(改善的処置)

- ◆緊急度は高くないものの、将来の健全な生育環境への改善に向け、段階的に処置を行います。
 - ◆安全性の確保をはじめ、健全な生育環境やシンボリックな景観が確保できる「適正な樹高」に改善していきます。
 - ➡具体的処置：「樹高抑制(芯止め)・剪定」等
 - なお、樹高抑制(芯止め)・剪定により隣り合う枝葉の重なりが改善されるため、枯れ枝の減少など維持管理の軽減にもつながります。
- ▶適正な樹高は、「安全性」、「維持管理性」、「樹木の生育特性・樹形バランス」、「道路景観」などを考慮し、「20～22m」とします。



現状



樹高抑制(芯止め)後のイメージ

③長期的な管理方針(順応的処置)

- ◆短・中期の対策後、改善がみられない課題に対し、必要に応じて段階的に処置を行います。
- ◆健全な生育環境の確保に向け、短期・中期の対策後の生育状況やモニタリング結果等を踏まえ、生育不良等で改善が期待できないものについては、段階的な伐採の検討や植栽基盤改善の対策を実施します。